

(3) 保健管理センター

① センター

ア 設置の趣旨（目的）及び組織

保健管理センター（以下「センター」という）は、本学における保健管理に関する専門的業務を行い、もって学生及び教職員の心身の健康の保持及び増進を図ることを目的としている。

センターは、内科医師（学校医兼任）、管理栄養士の各資格を有する教員 2 人、看護師 1 人、臨床検査技師 1 人、公認心理師 1 人で構成されている。

イ 運営・活動の状況

管理・運営については保健管理センター運営委員会の議を経て、所長が行っている。活動は、定期・特別健康診断、内科・外科的な応急措置、身体・精神保健相談、禁煙相談及び健康診断証明書の発行を中心に行った。

i) 学生の健康診断

学生の定期健康診断は、自記式健康調査票への記載、身長・体重・血圧の測定、尿検査、視力検査、胸部エックス線撮影検査（上越地域総合健康管理センターの検診車による）を実施した。受診率は 98.6%（学部生 99.3%，大学院生 97.8%）と、高い受診率であった。また新入生を対象に聴打診等による内科検診を実施した。眼科及び耳鼻咽喉科検診は、個人票記入によるスクリーニング健診を実施した。胸部エックス線撮影検査は撮影時間の確保と混雑緩和のため、職員健診の日程と分けて実施した。

その他としては、新入生に対しUPI（University Personality Inventory：大学生精神健康調査）を行い、心身の不調が推定される学生の呼び出し面接を実施した。また、BMI 値 16.5 以下の不健康やせ学生についても面接相談を実施した。

教養基礎科目の体育実技科目として、学部 1 年次学生を対象にウォータースポーツ、ほかスポーツ実践 4 科目が選択必須科目として開講しているため、当該実習中及び課外活動中の健康管理の観点から、特別健康診断として学部 1 年次学生全員に心電図検査を実施し、事故の発生防止に取り組んでいる。また、生活習慣病を早期に発見し、学生への保健指導・保健教育へ繋げるために、学部 3 年次学生全員に特別健康診断として心電図検査、血液生化学検査及び末梢血液一般検査を実施した。また、実習中の健康管理の観点から教員免許取得プログラム受講の大学院 1 年次生に心電図検査を実施した。その結果、心電図異常の 5 人、蛋白尿の 11 人を医療機関に紹介した。また血液検査で貧血 1 人、血小板低下 1 人を医療機関に紹介した。さらに LDL-C 高値の 5 人と肝障害の 2 人に保健指導を実施した。

ii) 職員の健康診断

職員の健康診断は、全職員を対象に身長・体重・血圧の測定、尿検査、視力・聴力検査、胸部エックス線撮影検査（上越地域総合健康管理センターの検診車による）、内科検診を実施し、受診対象年齢者及び希望者を対象に血液検査、心電図検査、便潜血反応検査を実施した。

iii) センターの利用状況等

当センターの利用については、開所時間内（8 時 30 分～17 時 15 分）において常に対応できるようにしている。身長・体重・血圧・視力・体温等は、常時計測できる。今年度の利用者数は延べ 839 人（学生 728 人、教職員 89 人、その他 22 人）で、前年度より増加した。

iv) 精神保健相談体制

今年度は内科医師1人、公認心理師1人、コーディネーター（看護師）1人による精神保健相談体制とした。精神保健相談は職員が相談者の相談内容と予約希望日を聞き、基本的には予約制とし、公認心理師、内科医師に引き継いでいる。緊急を要する場合には、医師や関係部署と連携するなど、迅速な対応に努めている。相談件数は延べ461件（学部生114件、大学院生310件、その他37件）で、前年度（313件）より増加していた。

v) インフルエンザ等感染症対策

今年度はインフルエンザ対策として平時（非パンデミック）のインフルエンザ対策体制（罹患した場合の報告を義務づけ、指導する）とし、対応等について掲示等で学生・教職員に示した。また、今年度も大学祭での感染症拡大防止のため、大学祭前に「越秋祭での感染症流行防止と食物アレルギー事故の防止について」と題して、所長が講演を行った。なお、今年度のインフルエンザ罹患報告は学生から6人、教職員から13人であった。

また、令和2年1月から国内で流行し始めた新型コロナウイルス感染症に対する対策も2月から行った。具体的には、感染予防策（頻回の手洗い、マスク着用、いわゆる3密を避けるなど）についての啓発活動（学内掲示等）、感染症状を有する学生や教職員からの相談に対する指導、さらに地域の保健所や他大学の保健管理センターとの相談等を通して学内流行防止対策に関する学内関係課への指導・助言を行った。

vi) 禁煙相談等健康支援活動

今年度も定期健康診断時に全学生を対象に喫煙に関するアンケート調査を行い、学生の喫煙実態把握に努めた。学生の喫煙率が把握できたことは有意義であった。本学は平成23年度より敷地内全面禁煙を実施しており、それに伴いセンターでは平成24年度より積極的禁煙支援のために禁煙補助薬の処方方を最長3週間に延長し、今年度も継続している。また、禁煙支援の案内を作成し、掲示等により啓発活動を実施した。今年度センターで禁煙希望学生に禁煙支援を行ったが、1年間確実に禁煙に成功した者はなかった。しかし、学生全体の喫煙率は7.2%、学部生の喫煙率は4.1%、大学院生の喫煙率は11.3%と前年度より減少がみられた。今後も禁煙支援の充実が求められる。

学生・教職員の自主的な健康保持増進等を積極的にサポートすることを目的として、健康促進月間（10月21日～11月20日）を設定し、健康・禁煙・栄養にまつわる相談を実施し、併せて健康相談も開催した。

vii) 健康保持増進に関する講演活動

健康保持増進を目的として、新入生合宿研修（4月19日）では「快適な学生生活を送るための健康管理」、新任職員研修では（4月4日）「健康管理について」と題して、所長が講演を行った。

ウ 優れた点及び今後の検討課題

i) 麻疹等感染症対策

今年度も学内および教育実習先での感染症流行防止対策として、入学生全員に対して麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎についての罹患歴と予防接種歴を記載する書類の提出を求めるとともに、上記4種類感染症の抗体検査とワクチン接種に関して医療機関受診と証明書の提出を義務付けた。具体的には、昨年度と同様に麻疹に関しては入学生全員に対して医療機関での抗体検査を求め、抗体陰性・低抗体価の学生にはワクチン接種を受けることも必須とした。また、水痘、風疹、流行性耳下腺炎については抗体検査と抗体陰性・低抗体価の学生へのワクチン接種について

は昨年度と同様に勸奨の形をとった。

今後の検討課題として、確実な麻疹感染防止を目的に、他大学の麻疹抗体価基準を参考に抗体価の基準を引き上げることが必要と考えられる。さらに今後新型コロナウイルス感染症が国内で流行したことも踏まえ、学生全員の感染症についての知識や認識をさらに高める対策が必要であると考えられる。

ii) 精神保健相談体制の充実

本学では近年深刻な心の問題を抱える学生が増加していることから、平成 29 年度より臨床心理士による面談（週 3 日、18 時間）と精神科医師による随時面談を実施し、相談機能の充実を図ってきた。しかし平成 30 年度末に精神科医師が退職したことから、それを補完する目的から臨床心理士（平成 30 年度公認心理師の資格を取得）による面談の時間を年間 30 日増加して対応した。さらに UPI（大学生精神健康調査）の確実な実施のために、新たに UPI カウンセラーとして本学の教員 2 人に依頼し、実施した。しかし、今後の精神保健相談体制の充実のため、公認心理師の常勤化が必要と考えられる。

また自殺念慮・企図等の心配な案件に対して、迅速に各課等関連部署と連携し、積極的に情報共有に努めた。今後も個人情報の保護に留意し、各課との情報共有に努めることが重要であると考えられる。

② 運営委員会

ア 設置の趣旨（目的）及び組織

i) 組織設置の趣旨（目的）

保健管理センター運営委員会は、当センターの運営等に関する諸問題について審議するために設置された機関である。

ii) 組織の構成及び構成員等

委員長はセンター所長が務め、委員としてセンター教員 1 人、学生委員会委員長 1 人、各専攻から選出された教授又は准教授の計 2 人、学長が指人した教授又は准教授 1 人の合計 6 人で構成されている。

イ 運営・活動の状況

i) 委員会等の開催状況

委員会を 2019 年 7 月 24 日、2020 年 2 月 19 日の計 2 回開催した。

ii) 審議された主な事項

- ・ 健康診断証明書の有料化について
- ・ 2020 年度保健管理センター年間事業計画
- ・ 2020 年度健康診断計画

iii) 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

本学学生の心身の健康の増進と疾病の一次予防及び生活習慣に関する個別相談の充実を図る目的で、平成 30 年度と同様に学部 3 年生に対して生活習慣調査票（日常生活・食生活・運動習慣・喫煙・飲酒・生活習慣病予防への実践に関する 6 項目と個別相談希望を問うもので「2019 生活習慣調査票」と称す）を作成し、令和元年 10 月に学部 3 年生を対象に生活習慣調査を実施した。また前年度と同時期に特別健康診断として採血検査も実施し、医療機関への紹介と生活習慣調査票を用いた個別指導を実施した。今後も継続した取り組みが必要と考えられる。

また新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、その感染防止対策にも重点的に取り組んだ。しかし、体温計やハンカチの所持、検温・手洗いやマスク着用をしない学生も見られ、今後感染症防止に対する学生への一層の啓発活動が必要と考えられる。